

# う た ひ ろ 歌 と と も に 広 ま

# は な し よ つ た お 話 を 読 ん で み よ う



きほくちょう  
紀北町

たね こん べ え  
種 ま き 権 兵 衛

紀北町では、『たねまきごんべえ』という お話が、むかしから つたえられてきています。



たねまきごんべえは、どんな 人 でしょうか。

ごんべえが たねまきや  
からすが ほじくる  
三どに 一どは  
おわずば なるまい  
ズンベラ ズンベラ  
ズンベラ ズンベラ  
と、はやしながら、家へ 帰って行くのを、  
ごんべえは、おこりもせず、にこにこ  
しながら 手を ふって 見おくるので  
した。



それというのも、ごんべえは 力もちのくせに、とても 気の やさしい  
男でした。ある日、うらの はたけに せっかく まいた、大こんのた  
ねを、からすが やってきて、かたっぱしから ほじくりだしてしまいま  
した。でも、ごんべえは、からすが かわいそうだと、おうことも できず、  
ただこまった 顔をして 見ているだけで  
した。

また、ごんべえは、銚子川に おちていた、  
こぶしくらいの、まるい ズベラズベラした  
石を、いつも 大じに ふところに 入れて  
いました。



子どもたちは、ごんべえの そんなところ  
が、すきで すきで たまりませんでした。

そのころ、山 ひとつ こえた 天満村の 後ろに そびえる 天倉山  
に、どこからか 大じゃが すみついて、たび人や 近くの 村人を、しば  
しば おそうようになりました。こまった 村人たちは、ごんべえに  
その 大じゃの たいじを たのみました。

## たねまきごんべえの歌

ごんべえさん

ごんべえが たねまきや

カラスがほぜくる

三どに 一どは

おはずばなるまい

ズンベラ ズンベラ

ズンベラ ズンベラ

〔歌のいみ〕

ごんべえが たねをまけば

カラスがほりかえす

三回に一回は

おいはらわなければならぬ

※ズンベラとは、

ごんべえが

大じにして

いた石です。



## お話

### 「たねまきごんべえ」

むかし むかし、山と 山とに はさまれた 小さな 村に、ごんべえ  
という わかものが すんでいました。

村一番の 力もちで、そのうえ、てっぽうの 名人でした。それでいて  
少しも 強がらず、いつも にこにこしていました。ごんべえは、村人  
たちの 自まんの たねでした。

なかでも 子どもたちときたら、しごとの ない日など、ごんべえに  
つきっきりでした。ごんべえも 子どもたちが すきで、ひまさえあれば  
村の まん中を ながれている、銚子川の 川原で、子どもたちと あそ  
んでいました。

日が くれかけると、子どもたちは、

たのまれた こんべえは、さっそく  
てっぽうを かついで、<sup>てんぐらさん</sup>天倉山へ であけて  
いきました。

てっぺんに たどりついた こんべ  
えは、20メートルもの <sup>なが</sup>長さの <sup>だい</sup>大じゃ  
を 見つけました。まっ赤っかの <sup>おおくち</sup>大口  
を パクリと あけて、つなのような  
したを チラチラさせた <sup>だい</sup>大じゃが、  
<sup>いま</sup>今にも おそいかかろうと していま



す。こんべえは すぐさま、てっぽうを、  
のどの おくへ ねらいさだめ、ズバーンと、なまりの <sup>たま</sup>玉を おみまい  
しました。

それでも、<sup>だい</sup>大じゃは、まっ赤な <sup>くち</sup>口を あけて、こんべえに たちむかっ  
てきました。もう、<sup>たま</sup>玉を つめかえる ひまも ありません。こんべえは、  
てっぽうを なげすてると、ふところから <sup>いし</sup>ズンベラ石を とり出し、力  
いっぱい なげつけました。みごと、<sup>いし</sup>ズンベラ石は、<sup>だい</sup>大じゃの <sup>め</sup>目と  
<sup>め</sup>目の <sup>あいだ</sup>間に <sup>あ</sup>ぶち当たりました。

すると <sup>だい</sup>大じゃは、むらさき色の <sup>いろ</sup>けむりを からだじゅうから ふき  
だして、ドウと たおれました。けれども、こんべえも また、その <sup>けむ</sup>けむ  
りに つつまれて、<sup>き</sup>気を うしなってしまうました。

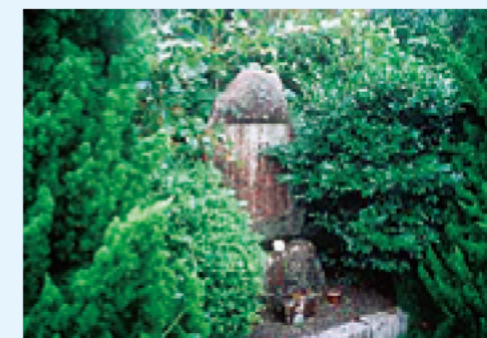
あくる日、心ばいして <sup>やま</sup>山へ のぼってきた <sup>むらびと</sup>村人たちに たすけられ、  
戸いたに のせられ、生まれた <sup>むら</sup>村に <sup>かえ</sup>帰ってきた こんべえは、まもな  
く、いきを ひきとってしまいました。

<sup>むらびと</sup>村人たちは みんなで、りっぱな こんべえの <sup>はか</sup>はかを つくりました。  
<sup>こ</sup>子どもたちは、その <sup>まえ</sup>はかの<sup>うた</sup>前で、こんべえの歌を、なみだを ながしな  
がら <sup>うた</sup>歌いました。

こんべえの <sup>うた</sup>歌は、こんべえの <sup>うわさ</sup>うわさと <sup>に</sup>ともに、いつしか、<sup>ほんじゅう</sup>日本中  
に <sup>ひろ</sup>広まって いました。

## こんべえさん

<sup>たね</sup>種まき <sup>こんべえ</sup>権兵衛のモデルは、むか  
し、<sup>きほくちょう</sup>紀北町に、すんでいた <sup>うえむら</sup>上村  
こんべえという <sup>ひと</sup>人です。こんべえ  
さんの <sup>はか</sup>はかは、<sup>いま</sup>今も <sup>ほうせんじ</sup>宝泉寺と  
いう <sup>てら</sup>寺に <sup>のこ</sup>のこっています。



こんべえさんのはか  
(紀北町教育委員会提供)

<sup>いま</sup>今でも <sup>まち</sup>町では、<sup>まいとし</sup>毎年「たねまきこんべえまつり」という  
まつりが ひらかれ、「こんべえおどり」が おどられてい  
ます。

「民話の絵本5 たねまきこんべえ」(さ・ら・え書房)、ほかから作成

## かんが 考えてみよう

- 1 『こんべえさん』の <sup>よ</sup>かきを <sup>よ</sup>読んで みましょう。
- 2 <sup>はなし</sup>お話に <sup>で</sup>出てくる こんべえさんは、どんな <sup>ひと</sup>人ですか。
- 3 <sup>はなし</sup>お話の <sup>なか</sup>中の <sup>こ</sup>子どもたちは、こんべえさんを どう <sup>おも</sup>思っていたと <sup>おも</sup>思いますか。
- 4 『こんべえさん』の <sup>か</sup>かしは、こんべえさんの <sup>ど</sup>どんな <sup>ところ</sup>ところを つたえてい  
るのだと <sup>おも</sup>思いますか。
- 5 こんべえさんの <sup>ど</sup>どんな <sup>ところ</sup>ところが <sup>すて</sup>すてきだと <sup>おも</sup>思いますか。
- 6 あなたの <sup>まち</sup>町にも、むかしから つたわる <sup>うた</sup>歌や <sup>はなし</sup>お話は ありますか。しらべ  
て みましょう。